

港区立白金小学校
令和3年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査の結果を踏まえた課題

国語	<p>区学力調査の結果では、1、2年生の校内平均正答率が8割以上あり、3～6年生も7.5割以上であった。これは目標値、区と全国の平均正答率を上回るものであり、学習内容の定着が見られる。</p> <p><第2学年> 平均正答率が8割を超え、目標値や区と全国の平均正答率を10%以上上回っている。正答率9割以上の児童が全体の52%を占めている。領域別に分析すると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の正答率が9割以上であり、よく理解されていることが分かる。一方「文章をかく」問題の内容では、目標値と正答率が同程度となることが分かった。</p> <p><第3学年> 平均正答率が8割を超え、目標値や区と全国の平均正答率を10%上回っている。正答率9割以上の児童が全体の48%を占めている。領域別に分析すると、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の正答率がほぼ9割であり、よく理解されていることが分かる。一方「文しょうを書く」問題では、指定された長さで文章を書いたり、経験したことから書くことを見付け、文章を書いたりするのに、目標値と正答率がほぼ同程度となることが分かった。また、「かん字を書く」問題も、目標値を下回り、第2学年に配当されている漢字の定着が弱いことが分かった。</p> <p><第4学年> 平均正答率が7.5割を超え、目標値や区と全国の平均正答率を15%上回っている。正答率9割以上の児童が全体の31%を占めている。領域別に分析すると、どの領域もバランスよく目標値に到達している。が、全体の6%にあたる7名の児童の正答率が50%未満であった。個別の学力の差があることが分かった。</p> <p><第5学年> 平均正答率が7.5割を超え、目標値や区と全国の平均正答率を14%上回っている。正答率9割以上の児童が全体の23%を占めている。領域別に分析すると、どの領域もバランスよく目標値に到達している。「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が97%と非常に高かった。「言葉の学習」で指示する語句の役割を問われる問題では、正答率と目標値が同程度であった。全体の4%にあたる4名の児童の正答率が50%未満であった。個別の学力の差があることが分かった。</p> <p><第6学年> 平均正答率が7.5割を超え、目標値や区と全国の平均正答率を12%上回っている。正答率9割以上の児童が全体の23%を占めている。領域別に分析すると、どの領域も目標値を10%上回り、バランスよく到達していることが分かる。「話し合いの内容を聞き取る」「言葉の学習」「文章を書く」問題が、目標値と同程度であった。全体の7%にあたる7名の児童の正答率が50%未満であった。個別の学力の差があることが分かった。</p>
社会	<p>区学力調査の結果では、どの学年においても観点別正答率を見ても、どの観点でも目標値を上回っているため、学習内容の定着が見られる。</p> <p><第4学年> 目標値と区の平均正答率を10%以上上回っている。領域別に分析すると、「くらしの移り変わり」の正答率が一番高かった。昔と今の道具について役割や工夫について、十分に理解している児童が多いと考えられる。一方「買い物調べ」の商店街に関する問題や、「安全なくらし—火事—」の交番に関する問題では目標値とほぼ同等の正答率であることが分かった。</p> <p><第5学年> 区や全国の値と比べて、高い値となっている。しかし、授業での取組も踏まえて考えると、思考・判断・表現に関する力が比較的弱いと考えられる。領域別に分析すると、「自然災害からくらしを守る活動」や「自然災害からくらしを守る活動」については、値は上回っていたが、平均正答率の値が区や全国の値と近いことが分かった。</p> <p><第6学年> 8割以上の正答率は、62%、3割以下は4%いた。学力の開きが見られた。全体として目標値に達していない項目は、「資料に着目し、日本の輸入品の変化についてその背景を捉え、判断している」であった。知識の定着・資料を読み取る力はあるが、その資料から背景や状況を考えたり判断したりする力に大きな差があると考えられる。</p>
算数	<p>区学力調査の結果では全ての学年においても校内平均正答率は8割を超えており、目標値、全国平均、区平均いずれも上回っている。しかし、満点を獲得できる児童や正答率9割以上の児童が多くいる一方で、平均正答率が5割に満たない児童がどの学年にも複数人存在しており、学年内での学力差が大きいといえる。また、第2学年時には、平均正答率が9割以上であったものが、第3学年になると8割強になり、第6学年では8割に減少する。当該学年での学習が不十分なまま学年が上がっている状況がある。</p> <p><第2学年> 平均正答率は9割を超え、正答率9割以上の児童が全体の63%以上を占めている。領域別では特に「数と計算」「データの活用」が9割以上の正答率であった。しかし、「図形」では、正答率は7割にとどまっている。また、平均正答率が5割に満たない児童も複数おり、個別の学力差が大きいことが分かった。</p> <p><第3学年> 平均正答率は8割を超え、正答率9割以上の児童が全体の41%であった。領域別では、「数と計算」「データの活用」「測定」で8割以上の正答率であった。しかし、「図形」では正答率は7割であった。また、全体の5%にあたる6名の児童は平均正答率が5割に達していない状況にあることが分かった。</p>

算数	<p><第4学年> 平均正答率は8割を超え、正答率9割以上の児童が全体の44%であった。また、全ての領域で8割以上の正答率であり、基礎的内容について9割以上の正答率であった。また、平均正答率が5割に満たない児童は1名、6割未満の児童が3名であった。これは全体の約3%にあたる。7割未満まで加えると12名で全体の約11%となる。算数に関して、よくできる群とそうでない群の開きが顕著といえる。</p> <p><第5学年> 平均正答率は8割を超え、正答率9割以上の児童が全体の約44%であった。領域別では「数と計算」「図形」「変化と関係」の正答率が8割以上であった。しかし、問題の内容別に詳しくみると「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る」問題で唯一目標値を下回り、正答率が48%にとどまった。また、正答率が5割に満たない児童が2名、6割未満の児童を含めると6名。これは全体の6%にあたる。正答率が8割以上の児童が71%であるのに対し、3割未満・4割未満の児童が存在し、2極化の傾向がみられる。</p> <p><第6学年> 平均正答率は約8割、正答率9割以上の児童が全体の31%であった。領域別では「数と計算」「図形」で8割以上の正答率であった。一方、「変化と関係」の正答率が約7割、問題の内容別でみると「割合」の問題で正答率が約5割にとどまった。これは区平均(約3割)比べると大きく上回るものの、他の問題に比較して理解が十分とはいえない。特に、百分率を理解した上で代金を比較する問題は、小数の計算、百分率の理解が十分でないため正答率が低かったと考えられる。また、正答率が5割に満たない児童が7名と全体の約7%、2割未満の児童も1名と学力差が大きい状況であった。</p>
理科	<p>区学力調査の結果では、どの学年においても観点別正答率は目標値を超えており学習の定着がみられる。それと同時に、定着していない児童との学力の開きも見られる。</p> <p><第4学年> 平均正答率は8割を超え、区の目標値を9%・全国正答率を7%上回っている。正答率9割以上の児童全体の30%を占めている。全体の4%にあたる4名の児童の正答率が50%未満であった。個別の学力の差があることが分かる。領域別に分析すると、ほぼどの領域も区の目標値を上回っている。ただし、「植物の育ち方」のハウセンカの花を咲かせたあとに実ができるという知識の問題に関しては、校内正答率34.9%と区の目標値を大きく下回っていた。B生命地球の分野の知識が課題であると考えられる。</p> <p><第5学年> 平均正答率は7.7割を超え、区の目標値および全国正答率を10%以上上回っている。正答率9割以上の児童が全体の17%、正答率8割以上の児童が42%を占めている。全体としての正答率は目標値を大きく上回っている。ただし、全体の6%にあたる6名の児童の正答率が50%未満であった。個別の学力差が見られる。領域別に分析すると、ほぼどの領域も区の目標値を上回っている。ただし、「1年間の動物のようす」のおおかまきりの1年間の様子に関する問題・「雨水のゆくえと地面のようす」の実験操作の誤りを指摘する問題に関しては、区の目標値を下回っていた。B生命地球の分野の知識および実験に関する思考・判断力に課題があると考えられる。</p> <p><第6学年> 平均正答率は7.6割を超え、区の目標値を8%・全国正答率を5%上回っている。正答率9割以上の児童全体の20%を占めている。全体の10%にあたる10名の児童の正答率が50%未満であり、個別の学力の差が大きくあることが分かる。領域別に分析すると、ほぼどの領域も区の目標値を上回っている。ただし、「天気の変化」の台風が近づいた時の天気の変化に関する問題に関しては、校内正答率57.1%と区の目標値を大きく下回っていた。また、「電気のはたらき」の電流の流れの向きに関する問題に関しても校内正答率39.8%と区の目標値を大きく下回った。知識の確実な定着に課題があると考えられる。</p>

2 各教科の具体的な授業改善

国語	<p>育成を目指す資質・能力</p> <p>・「書くこと」の領域で、自分の思いや考えが明確になるような構成を検討し、考えを形成・記述し、それを推敲したり共有したりする力。</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領にある「書くこと」の言語活動例を参考に年間を通して計画的に「書く」活動ができるよう計画を立てる。 ・日々の学習の中で、学習感想など自分の意見や思いを書く機会を増やし、文章の書き方が定着するよう指導していく。 ・書いた文章はペア学習や ICT 機器の活用により、友達同士で見合ったり共有したりする機会を多く作り、文章を書く活動に慣れ親しむ。
----	---	--

社会	<p>育成を目指す資質・能力</p> <p>・社会的な見方・考え方を働かせて、主体的に課題を追究したり、解決したりする活動を通</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ることを毎時間積み重ねる。 ・資料の見方や視点を教えていく。 ・資料から自分の考えを活動や、児童が自ら問いを見出せるような学習展開を考えていく。
----	---	--

	<p>して、社会的事象を自分の生活と関連させて考えることができる力。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力に関しては、通常の学習時にも個人差が見られるため、資料からその理由や背景を考えさせる場面では、個別の対応をする。 ・見方・考え方を働かせた学習を展開するため、時間軸、空間軸、相互関係を踏まえた授業展開をする。 ・様々な考えを共有することができる授業を意図的に展開する。
--	--	--

算数	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年で習得すべき基礎的基本的内容・図形領域での知識・技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査の同一集団の経年比較から、令和元年と比較しどの学年も2ポイントほどの上昇があった。(ゆるやかではあるが伸びている。)算数少数の指導体制の効果があつた。 ・算数少数クラスを活用し、レディネステストの結果を生かし学習が十分でない児童のクラスを作り個別対応ができるようなクラス編成を行う。 ・当該学年で習得すべき内容については、反復練習を積み重ね着実に身に着けられるようにする。そのために、東京ベーシックドリルを活用し、定着度を確認し、個別指導等で補習を行う。 ・グラフや表など学習の機会が少ない単元については、モジュール等を活用し、機会をとらえすぐに想起できるようにする。 ・思考力・判断力・表現力に関しては、通常の授業の中で、自身の考えを言葉、式、図、表などの手段を用いて表現させるようにし、児童同士互いに交流することで、考えを深めさせる。また、児童同士が、互いの考えを共有する活動のよさに気付くような授業展開を意図的に設定する。 ・定規、分度器、コンパス、三角定規等を使い作図する時間を十分にとり、図形の構成要素を整理させる。単に、作図の仕方を指導するのではなく、どうしてそのような作図になるのかを考える機会を設定する。

理科	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習課題づくり」から「結論」に至るまでの論理的思考能力およびそれらを表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説、観察・実験方法、考察などを、自分の言葉でまとめたり、友達に説明したりするなど、思考を整理して分かりやすく表現する機会を多く設ける。 ・「学習課題づくり」から「結論」に至った後に、知識として定着することができるように、各授業および単元で、まとめを確実に全体で行う。

生活	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や体験などを通し、自分自身のよさや成長、自分を取り巻く人々や環境に気付くことができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや交流を多く取り入れ、活動を充実させる。 ・実際に手に触れて観察したり、活動したりし、五感を使って、様々な点に気付くようにする。 ・自分だけでなく、他者にも目を向けさせ、周りの環境への気付きを高めたり、認め合う場を作ったりする。

音	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
---	--------------------	-----------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい音楽表現をするために必要な技能および音楽に親しむ態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、歌う際の姿勢や口形、発生方法を指導することで、響きのある歌声を習得させていく。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習では、スモールステップで指導したり、個に応じた指導を充実させたりしていく。 ・学習の中で「できた」「分かった」という達成感や充実感をもたせることで、学習に対する意欲と音楽に対する興味関心を高めていく。
--	--	---

図工	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを形に表すことができるための基本的な用具の扱い方を身に付け、イメージを膨らませながらのびのびと作品作りに取り組む力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具については、段階的に繰り返し指導することで定着を図る。また、単に技術の習得のみの指導になることがないように、制作の過程に意図的に練習を組み込むことで楽しみながら取り組めるようにする。 ・作品作りにおいては、自分の思いをのびのびと作品に表すことができるように、材料や制作時間を十分に確保し、個々の個性を大切に指導を行う。

家庭	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を身近に感じられるように、自分の生活と比べ具体的な課題意識がもてるようにする。(例お道具箱の整理整頓) ・家庭で日常的に経験していることの差が大きい。また、コロナ対応のため昨年度は調理実習を体験できていない。包丁やガスコンロの使い方など、夏休み中の課題として出し、実際に経験を増やす。 ・作品作りでは、使う目的を考えさせ、自身の生活に活用できるようにする。 ・自分の生活とかかわらせて考えることができるよう、授業の終わりに自身の生活や家庭と関連付けて振り返りをさせる。 ・適切な縫い方や手順を正確に理解できるようタブレットを活用し、児童が繰り返し作業内容を確認できるようにする。 ・自身の考えについて、児童同士がお互いの意見を交流する授業を展開し、考えを深められるような機会を設定する。 ・体験が少ない児童が多いので、体験的な学習を多く取り入れる。例えば、下着を身に着けることの良さについては、綿の手袋を身に着けてから、ポリ袋をかぶせた手とポリ袋のみかぶせた手では、3分後の感じ方はどう違うか実験した。また、洗濯(手洗い)では、汚れやおいを自分で確認しえから洗った後はどうなるか確認する、環境にやさしい洗い方が実践できたかなど。体験を通して、技能を身に付けられるようにする。 ・日々の生活にどのように生かせるか、社会科の内容やキャリア教育、さらに災害に備えることなど、他の教科、領域と関連付けて学習できるようにする。

体育	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための力。 ・その特性に応じた各種の基本的な動きや技能。 ・体力テストの結果を踏まえた、本校の重点課題の解決。(投力・持久力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は校庭が狭いため、遊び場に出て運動をしない児童もいる。そのため、遊び場の環境を整備したり、運動の場の紹介をしたりして、休み時間の運動の日常化を図る。中屋上、屋上の立ち幅跳びの場、反復横跳びの場の整備や紹介、また、令和2年度に設置されたボルダリングの運動方法の紹介や投力向上や持久力に関する取組を増やしていく。 <投力の向上> ①昼休みにスポンジボールを開放し、ボールを投げる経験を増やす。 ②体力テストの数値が特に低かった1年生・3年生に投げ方教室を行う。 ③実施した投げ方教室を全教員に共有し、投の運動を全クラスで実施する。 <持久力の向上> ①体育の学習の中で、感覚づくりの運動や主運動につながる動きとして持久走や短なわなどの動きを持続する能力を高める運動を取り入れる。 ②休み時間後に持久走や短なわなどの動きを持続する能力を高める運動を取り入れる。

国際	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって主体的に伝え合うことができる力。既習事項を活用し、自己表現ができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、担任が主となり、発話量を保証する授業を行う。変化のある繰り返しの中で、楽しんでたくさん発話させる。 ・中学年では、児童の実態に合わせて、必然性のある活動を設定し、慣れ親しんだ英語表現を使つての会話活動を行う。 ・高学年では、既習事項を使った即興的なやり取りをする機会を多く持ち、自分の思いを表現できるようにする。 ・専科教員と担任と連携し、学年学級の実態に合わせ、単元を通して柔軟かつ計画的な指導を行う。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神をもち、本年度の重点価値項目「親切・思いやり」の部分の他者を思いやる深い心情。 ・学んだ価値項目を実践していこうとする道徳的実践力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では、導入を発達段階に応じて工夫し、教材文やその価値項目に興味関心をもたせる。児童の発言に対して切り返しの発問を行い登場人物自身に自己投影させ、心の葛藤やその心情にじっくりと浸らせたうえで、価値項目について考えさせる。 ・道徳の授業をきっかけとして、学年の実態に応じたためあてを立て振り返る機会を設けたり、掲示物を通して常に意識させ振り返る時間を設けたりするなど、学校生活全体を通して道徳的実践力を身に付けさせていく。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図り、協力して自発的・自治的な活動を展開できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年集団で行う委員会・クラブにおいて、それぞれの学年に求められる資質・能力を明確にし、意図的・計画的に取り組めるようにする。 ・自分の役割を自覚し所属感がもてるよう、係活動や学級会を継続的・計画的に指導していく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付け、調べた内容を整理・分析し、自分の考えをもってまとめ、表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを活用した学習課題づくりを行い、自ら課題を見付ける力を育てる。 ・調べて分かったことなどを項目立てて振り返らせ、自分の言葉で表現する経験を積ませる。 ・発表資料の準備の際に、「見せて伝えるもの」と「話して伝えるもの」の区別を意識させ、伝え方による効果の違いを理解させる。発表の練習時間を十分とり、原稿を読むのではなく、相手意識をもち、聞き手の反応を見ながら、発表できるようにさせる。